小学校　国語

問題三7

中心となる語や文の把握　通過率 25.8%

抜き出す言葉の直前と直後にある言葉が本文と問題文とでは違う場合の通過率は，34.2%
（正答と誤答から該当箇所だけは正答となるものを足した数値）

抜き出す言葉の直前と直後にある言葉が本文と問題文とで同じ場合の通過率は，53.5%
（正答と誤答から該当箇所だけは正答となるものを足した数値）

一　平成三十二年、東京でオリンピック・パラリン
二　四年に一度、世界の国と地域を代表する選手が
さまざまなスポーツを行う大会、それがオリンピック
ネで行われ、十四の国と地域が参加しました。
三　オリンピックと同じ年に行われるもう一つのス
ートと傾う人や目の不自由な人など、体に障害
。パラリンピックの競技には、陸上競
パラリンピックは、昭和二十三年に
ー大会が行われたことが始まりとされ
ポーツは、⑥ケンコウ　や　⑦クンレン
業しんで行うスポーツへと変化していき
昭和三十九年の東京大会から、パラリ
それ　に参加する国と地域は百をこえ
ルが高くなっています。
パラリンピックによって、どのようなこ
ピックが開かれるようになり、世界中
発されるようになりました。例えば、競
しやすくなるように作られています。競
の性能も　⑧あがり、　利用者に合わせ
開発されてきました。
パラリンピックは障害のある人の生き方にもえいきょうをあたえています。パラリンピックが開かれるようになり、世界中で軽く、ぐれた補助ようで軽く、ぐれた補助ことで、通る機能をもつ女子走りはばとびの選手であった佐藤真海さんは、病気によって足を失うい経験をし、生きていく希望を失う時期がありました。しかし、大好きだっンにもう一度チャレンジし、目標とする記録やパラリンピックを目指して努力に喜びを感じ、自分らしい新たな生き方を見つけることができたそうです。佐今、前向きに生きていく気持ちにあふれ、これから先、自分はどんな人生をるかなと思うと、わくわくすると語っています。
八　このように、パラリンピックは、障害のある人の生き方にもえいきょうをあたえ、生きる喜びを生み出すことにもつながっているのです。
九　平成三十二年、わたしたちは、オリンピック・パラリンピックをむかえます。人類がつくり出した素晴らしい財産であるスポーツの祭典が成功するように、出場する全ての選手に大きな声えんを送っていきましょう。
7　次の□の文は、「パラリンピック」について、文章にどのように書いてあるかをまとめたものです。□に□と□に入るもっともふさわしい言葉を、文章中からぬき出して書きましょう。

スポーツの祭典であるパラリンピックは、□□□□□□□□をつくることに役立つとともに、障害のある人の□□□□□□□につながるものである。

誤答分析から，言葉を抜き出してまとめる問題を解く際に，児童は，問題文の□で抜かれた言葉の直前や直後にある言葉に着目して，抜き出す言葉を探している傾向があることが分かる。このことから，「パラリンピック」について文章にどのように書いてあるかまとめるという目的に応じて必要となる語や文を捉えているのではなく，同じ言葉を探しているだけにとどまっているという実態があることが分かる。

内容の系統

第1・2学年
読むことイ
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

▶

第3・4学年
読むことイ
目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。

▶

第5・6学年
読むことウ
目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

解答類型		割合（%）
○	だれもがくらしやすい社会（12字），生きる喜び（５字）	25.8
×	「だれもがくらしやすい社会」とは解答しているが，「生きる喜び」とは解答していないもの	27.7
×	「だれもがくらしやすい社会」とは解答していないが，「生きる喜び」とは解答しているもの	8.4
×	上記以外の解答	18.7
―	無解答	19.4

提案　**目的に応じて中心となる語や文を捉え，それらを関係付けて自分なりにまとめるような学習を仕組みましょう。**

○　読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり，そのため取り上げる中心となる語や文も変化します。文章の内容をまとめさせる際には，まず，児童に，何のために文章をまとめるのか目的を明確にさせることが必要です。その上で，文章に書かれていることをそのまま書き抜かせるのではなく，目的に応じて中心となる語や文を捉えさせ，それらを関係付けながら自分なりにまとめさせましょう。

○　なお，「中心となる語や文の把握」に関しては，平成26年度の学力調査報告書でも取り上げています。あわせて参考にしてください。